

SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION
for Piano & Violin



仙台国際音楽コンクールニュース

コンチェルト Concerto



第7回仙台国際音楽コンクール

ピアノ部門：2019年5月25日(土)～6月9日(日)
ヴァイオリン部門：2019年6月15日(土)～6月30日(日)

Vol.7-2

(2018.8.20発行 第7回コンクール関連 第2号)

インタビュー 岡本誠司さん

(第6回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門第6位、聴衆賞受賞)



市制施行129周年記念コンサートに出演されるため留学先のベルリンから来仙された岡本誠司さんに、現況とこの秋出演予定の仙台クラシックフェスティバル（せんくら）についてお話を伺いました。

東京藝術大学をご卒業後、ドイツのベルリンに留学されていかがですか。

場所が変われば、環境も一変しますから、やはり新しい刺激は多いです。自分が表現する側であっても周りからの影響は大きいので、他の音楽家の素晴らしい演奏を聴くと、あらためて表現の工夫に気づきます。また演奏家それぞれの音楽の物語を聞くと、自分になかったものや、薄かった部分が育つたり、考えがガラッと変わったりするので、そういう意味でも自分以外の音楽に触れる機会を多く持とうと思います。例えば、3色くらいしかないパレットから色を足したとしても、その程度にしかなりません。パレットを増やして、あるいはたくさんの中を知ることで、その色を出せるだろうということに繋がって、ひいてはパレットの色が増えることになると思います。せっかく人生を積み重ねていくわけですから、自分のやり方はこれと決め切りすぎて可能性を狭めていかないように、演奏も豊かなものにしていきたいですね。

留学先を決めた理由をお聞かせください。

大学在学中に第19回J.S.バッハ国際コンクールがあり（2014年、ヴァイオリン部門にてアジア人として初優勝、聴衆賞受賞）、何度もベルリンに足を運んでいましたし、物価もそこまで高くないのです（笑）。また、ベルリンフィルを毎週のように聴けますし、世界のトップクラスの演奏家と距離が近いことは大きいです。ただやっぱり、一番はアンティエ・ヴァイトハース先生に教えてもらいたいということでした。ドイツの女性のヴァイオリニストで、特にヨーロッパで精力的に活動されていますし、来日も何度もされています。頭が切れて的確なアドバイスをくださる、明るい素晴らしい先生です。

現在ハンス・アイスラー音楽大学で研鑽されている中で挑戦していることはありますか？

音作りの可能性を広げていき、ヴァイオリンという楽器を用いて最大限の表現をするにはどうしようかと考えています。せっかくこういう風に弾きたい、歌いたい音があるのに表現する技術が足りないと、説得力がないので。

今はヴァイトハース先生のもとで、弾き方を大改革中です。自然な状態で弾くことによって、より楽器本来の音も豊かになりますし、音楽自体もよくなると考えています。

では、市制施行129周年記念コンサートは改革中だったのですね。

そうですね、まだ改革中だったので9月29日のせんくらでさらに変わっているかもしれません（【25】：「せんくら・フェスティバル・ソロイズツ」、【52】：「仙台国際音楽コンクールとドイツが結ぶアンサンブル～シューマン・ブルームス」）。



岡本誠司さん

出演される「せんくら」公演の聴き所を教えてください。

【25】は、バロックの作品で弦楽合奏ですが、すごいメンバーですよね。確固たる個性をお持ちの皆様なので、どうなるのかリハーサルが始まるとみないとわからない、ドキドキの演奏会です。バロックは、それをどう演奏するか演奏家それぞれの個性が出るので、えらいことになるかもしれません（笑）楽しみです。

【52】ですが、北端さん、坂本さんはベルリンに留学されている先輩です。お二方が前回の仙台国際音楽コンクールのピアノ部門で入賞したことは伺っており、私がベルリンに留学したタイミングでようやくお会いすることができました。仙台フィルチエロ首席奏者の吉岡さんとは仙台のコンクールで、もちろん一緒にしましたけれど、実はその前に私がJ.S.バッハ国際コンクールを受けていた時に吉岡さんもライブツィヒにいらっしゃり、有名なゲヴァントハウスのホールの舞台裏でお会いしました。とはいっても一緒に演奏するのは初めてです。シューマンとブルームスは、留学する前から好きな作曲家です。特にシューマンは、仙台のコンクールでコンチェルトを弾いた前後から、その魅力に惹かれるようになり、近年重点的に取り組んでいます。ドイツにゆかりのある4人で演奏するので、楽しみですね。

最後に仙台市民の皆さんにメッセージをお願いします。

仙台の皆様にはいつもあたたかく迎えていただき、うれしく思います。9月にも伺いますが、それ以降も「戻ってきたい」と思いますので、よろしくお願ひします。



仙台クラシックフェスティバル2018



今年のおすすめ公演



<https://sencla.com/>

お問合せは、せんくら事務局022-727-1872へ。

楽都仙台にクラシック音楽が溢れる3日間。パンフレットは、もう手にとられましたか？第13回となる今年の「せんくら2018」は、9月28日(金)、29日(土)、30日(日)、地下鉄沿線の4会場（仙台銀行ホールイズミティ21、日立システムズホール仙台、エル・パーク仙台、太白区文化センター）で繰り広げられます。多彩なプログラムには、ソロありデュオありアンサンブルあり、そしてオーケストラあり。中には、0歳児も入場できる公演もあります。

今回初登場の「せんくらアーティスト」の中には、前回の第6回仙台国際音楽コンクール入賞者、ヴァイオリニストのチャン・ユジンさんに岡本誠司さん、ピアニストの北端祥人さん、坂本彩さんも。コンクールの会場運営サポートボランティアは、来場される皆様をお迎えします。ここでは、広報宣伝サポートボランティアの3人が、「おすすめ公演」について語り合いました。



チャン・ユジン
©BONSOOK KOO



岡本誠司
©TAKUMI JUN



北端祥人
©Eugene Nakamura



坂本彩



では、開催日順にご紹介しますので、よろしくお願いします。



28日は平日なので、日中お仕事の方もいらっしゃると思いますが、【1】「バッハ生誕333年！オープニングは豪華3名のソリストで、バッハの3大名曲を聴く」をお勧めします。ヴァイオリンの川久保さん、チェロの長谷川さん、チェンバロの鈴木さんの3つの楽器による演奏を楽しむことができます。



鈴木さんは、9月の仙台フィルの定期演奏会では指揮をされますよね。



川久保賜紀
©Yuji Hori



長谷川陽子
©Hideki Shiozawa



鈴木優人
©Marco Borggreve



彼が演奏するパルティータ第2番は、6曲中で特に人気の曲。ピアノで演奏される機会が多いので、チェンバロでの演奏を聴ける機会は本当にめずらしいと思います。



私は無伴奏チェロ組曲第1番を聴いてみたいです。まだ生で通しの演奏を聴いたことがありません。当日は出勤日ですが、有給休暇が残っているので、休暇を取ろうかな・・・(笑)



29日は、成田さんのヴァイオリンと加藤さんのピアノによる【27】「心に響く『祈り』の響き、深渊なる音楽！」です。第5回コンクールで成田さんのヴァイオリンの音色が私の琴線に触れて、九州まで追っかけをしてしまいました。で、この公演は外せませんね。



仙台国際音楽コンクールではいろいろな出会いがありますね。



成田達輝
©Marco Borggreve



加藤昌則





次のおすすめは【55】「『パッション～祭り』情熱のガラ・コンサート」です。津軽三味線の浅野祥さんは、彼がプロになる前から聴いていました。最近、特に成長が著しいと思います。私の大好きなアンダローロさんの演奏も大いに楽しみです。



ジュゼッペ・アンダローロ
©Augusto Serpente



宮城県出身の及川浩治さん、ジャズピアニストの山下洋輔さんの演奏も一緒に聴けるなんてぜいたくなコンサートですね。



西江辰郎
©Kazuhiko Suzuki

原田哲男



最終日の30日は【67】「ヴァイオリン西江辰郎＆チェロ原田哲男が贈る！仙台フィル時代の盟友による魂のデュオ」です。2人は仙台フィル在籍当時、人気を二分していたので、今回の「競演」も聴きごたえがありそうです。



お二人が、仙台フィルに在籍されていたのは、いつ頃ですか？



ちょうど仙台国際音楽コンクールがスタートした頃（2001年）かしら？久しづりにお二人の演奏が聴けるのが楽しみです。



私のおすすめは、【73】「北端祥人＆坂本彩 仙台国際音楽コンクール入賞者ピアノデュオ」です。



お二人は、共に第6回ピアノ部門の入賞者ですね。



現在はお二人ともドイツ、ベルリンで一緒に学ばれていて、ピアノ連弾の演奏も予定されているので、息の合った演奏が聴けると思いますよ。また楽しいトークが飛び出すのではないかと期待しています。



最後になりますが、3人揃ってのおすすめです。【86】「仙台国際音楽コンクール、第1回・第6回優勝者によるメンデルスゾーンとグリーグの贅沢なタベ！」です。



ヴァイオリンとピアノの有名な協奏曲と一緒に聴けるコンサートです。私は特にグリーグが大好きです。北欧の自然のように雄大なスケールの澄んだ美しさを持った曲です。



今ではすっかり常連のアンダローロさん、以前はマンマ（お母さん）の料理が一番と言っていましたが、仙台でもおいしい食べ物に出会えたかな？



メンデルスゾーンのコンチェルトは、第6回コンクールヴァイオリン部門のファイナルの課題曲でした。



ユジンさんにとっても仙台での想い出の1曲になりましたね。



今回話題にしたおすすめの他にも魅力的な公演が目白押しですね。今年は完売公演が次々と出ているので、早くチケットを買っておかないと！

「Charity Concert for Sendai Vol.8」 レポート

5月5日（土）、仙台国際音楽コンクールに出場経験のあるピアニスト5人（佐野隆哉さん、米津真浩さん、鈴木美紗さん、法貴彩子さん、津田裕也さん：写真左から）によるチャリティーコンサートが東京の牛込篠崎区民ホールで開催されました。

このコンサートは東日本大震災発生直後の2011年4月7日に始まり、仙台のコンクールに出場したピアニストの皆さんによる自主運営により毎年継続され、震災からの復興に対して大きな力をいただいているいます。



第8回目の今年は、没後100周年を迎えるドビュッシー、そしてショパンの名作を5人のピアニストが弾き分けるという、贅沢なプログラムが組まれました。この日の収益金と募金をもとに、「仙台市」と災害を含めてさまざまな事情で家族と暮らせない子ども達を支えるNPO法人「子どもの村東北」へ計243,360円が寄付されました。スケジュールを合わせるだけでも大変なピアニストの皆さんですが、仙台を常に忘れず心を寄せて、ご自身で企画から開催までご苦労頂いているこのコンサートが毎年続いていることは「奇跡」と言っても過言ではありません。そして、今年ご来場いただいた200名を超えるお客様にも、心より感謝申し上げます。



仙台国際音楽コンクールを支える大きな力

仙台フィルハーモニー管弦楽団をもっと知ろう！【7】



仙台フィル マスコットキャラクター
(C)MIKIO IGARASHI/S.P.O

今回は仙台フィルハーモニー管弦楽団 クラリネット首席奏者ダビット・ヤジンスキーさんにお話を伺いました。

ダビット・ヤジンスキーさん（33歳）は、ポーランドの南部カトヴィツエ市で1984年12月24日に生まれ、2012年11月に仙台フィルハーモニー管弦楽団へ入団。“良い音楽は元気になります”という信念で活躍されています。



クラリネットと出会うことになったきっかけは何でしたか？

私が生まれた冷戦時代は、「音楽家」か「スポーツ選手」しか国を出ることが許されなかった為、両親はよりよい将来性を考え、私に3歳からピアノを習わせました。その後、音楽コースのある中学・高等学校（シマノフスキーエラ、ピアニストのツイマーマンも卒業生です）に入り、その学長に音楽の道を進むのならオーケストラの仕事を目指したら良い、と勧められました。「フルート」「コントラバス」「トランペット」「クラリネット」の中から楽器を選びなさい、ということになり、いろいろ悩みましたが最終的に「クラリネット」の音色にひきつけられて選びました。10歳のときです。

先生はとても熱心で、90分の授業だけでなく延長して教えてくれ、中学になると家まで来て15時から22時頃までみっちりと指導してくれました。こうして私の音楽家の道を開いてくれたのです。

クラリネットの持つ楽器としての面白さや楽しいことは何ですか？

クラリネットは音域が非常に広く、f f fからp p pまで音量に変化を付けることができます。また、演奏の仕方によってとても幅広い音色が出せるので音楽が個性豊かで味わい深くなります。さらに、演奏する分野でも独奏から合奏まで出来、舞踊の伴奏やオペラの舞台でも使われています。楽器の大きさもギターやコントラバスのように大きくないので軽く持ち運びができます。いわゆる、いろいろな分野で幅広く手軽に活用されている楽器と言えますし、演奏者の技量によって聴く人に感銘を与えることができる素晴らしい楽器と思っています。

オーケストラの中でクラリネットの果たす役割をどう考えて演奏していますか？

クラリネットがオーケストラにおいて担う役割は二種類あります。一つはメロディー：主旋律を担当すること、そして二つ目はハーモニーを担当することです。主旋律を担当していくなくても、曲が全体として持っている奥深さや雰囲気を醸し出していくために、クラリネットは欠かすことのできない役割を担当しています。曲のその時その時の雰囲気を捉えて、相応しい音色を生み出すことのできるよう、その一瞬一瞬の“集中力”を絶やさずに、幅広い音色によって音楽の雰囲気作りをしていくのがクラリネットの大切な役割のひとつだと思っています。これはオーケストラの演奏ではとても大切なことです。

私としては、楽器のもつ幅広い表現力をしっかりと生かしていくのが使命であり、楽しみでもあると思っています。

演奏に対する心掛けと趣味・楽しみを教えてください

心掛けとして、コンサート前のリハーサル時から“200%の集中力”に高めていく、そのまま本番の演奏をするように日々の研鑽を積んでいます。楽しみな事は、「温泉」に入ることで、東北・宮城県にも沢山ありますからおおいに楽しんでいます。また、食べることも好きで、“ホヤ”も“ウニ”も美味しいですね。子供と遊んだり、家族と過ごすのも僕の楽しみです。もう少しで二人目が産まれるので待ち遠しいですね。

♪編集後記♪

岡本さんの魅力が読んでいる方に伝わっていますように。(Y#)

インタビュー原稿をまとめるため、自分でP.D.C.Aをしっかりと確認しながら仕上げることができましたが、皆さんのご協力があって完成したと思っております。有難うございました。(勝)

あっという間にボランティア歴6年となりました。その楽しさを、もうすぐお迎えする新規メンバーにも伝えたいです。(岡)

初のコンサート編集参加で、3人で「せんくらお勧めコンサートの紹介」を担当しました。“せんくら2018”楽しみです。(Y.I.)

せんくらの公演スケジュールが発表されました。毎年10名超の新しいアーティストが参加されるので興味深く、飽きることがありません。今年も目一杯、聴きまくるぞ！(W)

せんくらのチケット取ったぞー！と手帳に書き込むうとしたら、他の予定が入っていました。最近開演時間を間違えたり、直前まで忘れていたりすることが続いたので気をつけます。(川)

来年開催される音楽コンクールに向けて多くの新しいボランティアの方が入ってきました。一緒に手を携えてコンクールを支え、盛り上げて行きましょう。(清)

今年の夏も猛暑が続きましたが、演奏で使われる楽器に影響は出でないのでしょうか？少し心配になりました。(早)

最近「コンサート」バックナンバーを読み返しています。
simcHPでweb版創刊号から読めますのでぜひどうぞ！(グ)

通学途中に駅でせんくらのパンフレットを見かけるようになります。私もボランティア2年目を迎えるました。猛暑に負けず今年も頑張ります。(M)

担当して初めてのコンサート、メンバーの皆さんとの創意工夫がございました。来年のコンクールに向けて一緒に活動を盛り上げていきたいです。(事務局/は)

新規メンバーも加わる広報部門の今後の活躍がとても楽しみです。(事務局/S)

発行：第7回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

問合せ：仙台市市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: https://simc.jp/